

日本保健物理学会「教員等協議会・若手・学生」合同会議（第 21 回）

日 時：令和 4 年 5 月 26 日（木）9 時～10 時

参加者：（教員等協議会）飯本（理事）、安岡（理事）

（若手研）迫田（理事）、廣田（参与）、辻、廣内、中嶋、嶋田、五十嵐、渡邊  
（学友会）小池、金、橋本

概要：

①日本保健物理学会 2022 年度シンポジウム（6/28-29）について

- ・ 若手研セッション：次期主報告のより深い理解のための勉強会として「環境に対する放射線防護の現状」をテーマとする
- ・ アンケート調査において、学生からの関心が高かったためにテーマに採用
- ・ 担当企画委員は辻氏（座長）、廣田氏（講演者）、川口氏（講演者）の 3 名
- ・ アンケート結果について 10 分、「環境に対する放射線防護の現状」に関する講演を 40 分、質疑応答を 10 分で実施予定
- ・ アンケート結果について、「なぜ若手の最近の興味を聞いたのか」を導入で説明すべき
  - 学会及び分野の将来を考えた時に、今後 20 年くらいで研究の加速が見込まれる分野といえる
- ・ 「環境に対する放射線防護の現状」はヒト以外の生物種に対する内容を講演していただく
  - 講演に関するオーダーは特にしていないが、「防護の最適化」に関する ICRP の考え方は話して頂くよう依頼済み
  - おおまかには、川口氏が以前保物学会誌でまとめていた内容の予定
  - 福島事故後に、現場では ICRP の勧告を意識して何か動きがあったのか聞いてみたい

②韓国若手（KARP YSG）との合同ワークショップについて

- ・ IRPA YGN の枠組みを活用して、2018 年以降、韓国や中国と合同ワークショップを開催してきた
- ・ 今年の案として、KARP 冬のワークショップ（11/23-25、済州島）の 1 つのセッション（11/23）での開催提案を受けた
- ・ テーマ案として、互いの若手の研究内容の紹介を提案されている
- ・ 意見交換
  - 国際的なつながりは大事であるため、積極的に参加すべき
  - 現地参加？遠隔？現地に若手を派遣するための若手研予算は確保済み
  - 保健物理学会・放射線安全管理学会合同大会（11/24-26）の前日であることを

うまく活用できないだろうか

- 23日が韓国主催、24日が日本主催のような2日間開催はどうか。お互いに1-2セッションくらいの規模感で
- 「韓国・中国側の関心はなにか」、「日本側から何が聞きたいか」をあらかじめ議論できないか
- ICRP次期主報告について、日本のアンケート結果から日本側の若手の興味はわかっているため、その結果を見せながら韓国・中国の若手が何に関心があるか議論できると思う。あるいは同様の調査を行ってもらうのもよいかもしれない
- 韓国では医療関係と原子力関係が半々の割合で1000人規模で学会に参加しているが、若手の人数は何人か？日本の保物と構成が違うため、それぞれの強みを前面に出して交流できると面白い
- 今後のイベント（来年2月AOCRP-6、11月ICRPシンポジウムなど）や若手研活動計画も意識しながら開催できるとよい
- ・ 2019年仙台でのJHPS-SRP-KARP若手合同ワークショップの経験を活かせないか
  - これは丸一日のイベントで、午前に大きなテーマ、午後に個人的な若手の研究報告、でプログラムを組んだ
  - 今回はこれと同じ規模感で開催するのは難しいが、もし2日間開催であれば、両テーマを振り分けることもできる
- ・ 予算についてはどうすべきか
  - 今年度は2月にAOCRPがある
  - IRPA、AOCRPなど2年に一度のイベントがない時にも積極的に海外とのつながりを強化するため、コンスタントに動ける予算を用意すべき
- ・ 本件について窓口となるのはIRPA YGN委員会メンバーの迫田氏

### ③今年度予算について

- ・ 申請された予算は執行理事会で共有済み
- ・ 現状では特に問題はなく、足りると思われる

### ④連携協力ワーキンググループについて

- ・ 教育訓練のために動画を出していきたい
- ・ 著名な先生方の講演や本の内容についての動画もできれば面白いと思う
- ・ 管理する側から見るとこのような教材があると嬉しい
- ・ オンラインの時代のため、従事者教育で共通の動画を用いて新しい知見を共有していくことも非常に有効だと思う

- ・ 動画ではなく、オンラインでのリアルタイムの講習も実施できるのではないか
- ・ 既存の教育資料としては環境省、原子力規制委員会、QST、日本アイソトープ協会、日本放射線安全管理学会等のウェブサイトがある
- ・ 今後のシンポジウムでさらに検討する予定（保物学会は 6/28、管理学会は 6/16）
- ・ 新規というより再教育に使う？再教育に向けた動画なら 2 時間分は足りない？
- ・ 教育訓練は法令で時間が決まっているが、この動画でまかなえるのか
  - 事故例を取り扱うのであれば、人体影響等の時間に組み込んでいけると思う。または、最低 2 時間にプラスアルファとして見せていくことになると思う。あくまでも管理者が判断して教育訓練に組み込む。
- ・ 対象は業務従事者（YouTube 等で幅広く配信するつもりではない）
  - 従事者だけでなく、新人教育にも使えると思う。「会員のみが見られる」ではなく、「みんなが見られる」方が学会の宣伝にもなるため、広く公開したほうが良いのではないか。
  - ステップアップして最終的にはそうしたい
- ・ この教材がきっかけで学会に所属する人が増えてほしい
- ・ 学会会員のみ公開するのは、動画を使用したいために学会に参加する人を増やせるからなのか
  - 少しはその考えもあるが、どちらかという社会貢献的なものに将来ステップアップしていきたい

○次回の開催予定

日本保健物理学会「教員等協議会・若手研・学友会」合同会議（第 22 回）

7 月 12 日(火)9:00-10:00 Zoom 開催